

うみなかビジョン2030

～ 国営海の中道海浜公園の将来像 ～

資料編

令和3年3月

国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

目次

資料 1. 海の中道海浜公園の歴史	_____	P1
資料 2. これまでの計画・設計	_____	P5
資料 3. 各エリアの整備状況（パークエリア）	_____	P6
資料 4. 各エリアの利用状況	_____	P8
資料 5. 未開園区域の現状	_____	P10
資料 6. 公園整備・管理運営によるストック効果	_____	P14
資料 7. 社会情勢の変化	_____	P19

資料1 海の中道海浜公園の歴史

(1) 平安時代から昭和まで

海の中道遺跡 (8世紀～11世紀)

海の中道遺跡は太宰府政庁に直属した厨戸(くりやべ)の集落跡と見られている。出土品としては、製塩土器や漁具、調理具のほか、灰釉陶器の薬壺、役人が制服の腰帯に飾った石袴、「唐草双鳳八稜鏡」など、上層階級が使った特異な異物がある。

元寇 1281年(弘安4年)

文永の役では、福岡市外に上陸し戦った元軍だったが、2度目の来襲時には海岸線一帯は防塁で防備されており、やむなく志賀島を選んで上陸したらしいと予測されている。

現在、島には、文永の役の際に逃げ遅れた蒙古軍を葬った地に建立された「蒙古軍供養塔」、弘安の役の際に高野山の僧侶が蒙古退散を祈って安置した不動尊が、そして実際に蒙古軍が退散した際に火焰の部分が残されていたのでそれを記念した「火焰塚」がある。

海の中道の植林 1660年(万治3年)

加藤弥左衛門は以前より西戸崎の不毛の砂地に土を入れ松の植林を試みていたが、根付けに成功し、これより本格的植林が始まった。

この時期、黒田長政が徳川幕府の下博多に入り、新田の開墾や植林などを奨励し、生の松原や百道松原などを形成したらしい。海の中道の植林もこの流れの中で行われたものかもしれない。

1779年(安永8年)

加藤弥三之丞重賢も西戸崎に松を植える。

金印の発見 1784年(天明4年)

「漢委奴国王」の金印が志賀島より発見

明治維新 1863年(文久3年)

西戸崎に異国船打ち払いのための砲台場建設

博多湾鉄道の開通 1904年(明治37年)

博多湾鉄道(株)西戸崎～須恵間開通(翌年宇美までが開通)粕屋炭田、志免炭田からの石炭の積出港として栄えることとなった。1943年(昭和18年)国鉄が買収して香椎線となった。

日本で初めての製油所 1909年(明治42年)

日本で初めての製油所であるライジングサン石油稼働開始。その後米軍石油廠を経て、シェル石油へ(現在は経営統合し出光興産株式会社)。

雁ノ巣飛行場 1936年(昭和11年)

雁ノ巣に国際飛行場が建設された。京城、大連、上海、台北へ向かう羽田に次ぐ2番目の規模(76ha)を誇る国際飛行場であり、2本の滑走路(1700m、1300m)があった。

西戸崎炭坑開坑 1937年(昭和12年)

西戸崎炭坑開坑。石炭積出港、炭坑と続き、西戸崎地区は栄えることとなる(昭和30年の8,688人がピーク)。1963年(昭和38年)閉山。(閉山の後、西戸崎開発(株)となり、西戸崎ゴルフ場、マリナーなどを現在も経営)

博多海軍航空隊創設 1940年（昭和15年）

海の中道に博多海軍航空隊創設。初期は、水上飛行艇が飛ばされていたが、その後普通飛行機も飛び立つようになった。同時期に渡辺鉄工株式会社が海軍の御用達として組立工場及び試験場を設置するため広大な土地を買収して飛行場となった。

米軍駐留 1945年（昭和20年）

米軍、海軍航空隊跡に駐留「キャンプ博多」と称す。

米軍640部隊、及び特殊電波関係部隊が駐留。朝鮮戦争当時は第一線の米空軍基地として使用され、航空機の大型化、ジェット化により飛行場としての価値が薄れてからは無線基地となった。無数の鉄塔(アンテナ)が建ち、その間の土地がゴルフ場に使用された。現在の都市計画道路の博多湾側(現在リゾートエリアになっている)に司令部隊の中核があり、道路から北側の現在野外劇場、サンシャインプールとなっている部分に将校宿舍等があった。

福岡市との合併 1960年（昭和35年）




和白町、福岡市と合併

米軍基地返還 1972年（昭和47年）









米軍撤収

(2) 米軍基地返還から現在まで

1971（昭和46）～1980（昭和55）年

年度	～1971 ～S46	1972 S47	1973 S48	1974 S49	1975 S50	1976 S51	1977 S52	1978 S53	1979 S54	1980 S55	
社会の出来事		<ul style="list-style-type: none"> ●パンダ2頭が上野動物園に來白 ●日本列島改造論 	<ul style="list-style-type: none"> ●オイルショック 		<ul style="list-style-type: none"> ●「およげたいやきくん」が大ヒット 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市公園法改正（国営公園制度創設） 		<ul style="list-style-type: none"> ●成田空港開港 		<ul style="list-style-type: none"> ●第二次オイルショック 	
公園に関する出来事		<ul style="list-style-type: none"> ●米軍博多基地返還 	<ul style="list-style-type: none"> ●雁ノ巣公園建設連絡協議会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ●国営公園建設連絡協議会発足 ●国営公園建設連絡協議会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ●海の中道海浜公園基本設計 	<ul style="list-style-type: none"> ●「海の中道海浜公園」都市計画決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●国営公園の区域決定、工事着手 	 <p>1975年（S50年）撮影（C地区付近）</p>			
	 <p>1964年（S39年）撮影（米軍博多基地時代）</p>					 <p>1976（S51）.3 基本設計より</p>					

1981 (昭和56) ~ 1990 (平成2) 年

年度	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
社会の出来事			●東京ディズニーランド開園	●日本の総人口が1億2000万人に	●つくば万博開催			●よかとぴア(アジア太平洋博覧会)開催		●スペースワールド開園
公園に関係する出来事	●供用開始(西口広場、大芝生広場、動物の森) [供用施設等]		●サンシャインブルの子どもの広場、野鳥の森	●観覧車			●ホテル海の中道	●マリンワールド海の中道(第一期)、青少年の家		
										
										
										1981 (S56) 年度時点の開園区域 (58.7ha) (当初開園区域) 1990 (H2) 年度時点の開園区域 (156.3ha)



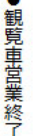




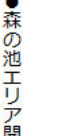

1991 (平成3) ~ 2000 (平成12) 年

年度	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
社会の出来事	●八木ステテンボス開園 ●お立ち台テイクコ ●ジュリアナ東京オープン		●環境基本法 ●博多港国際ターミナル開設 ●福岡ドーム完成	●地下鉄サリン事件 ●阪神・淡路大震災 ●アイランドシティ事業開始		●大阪ドーム、ナゴヤドーム完成	●環境影響評価法		●PFI法施行	●CSJオープン ●循環型社会形成推進基本法
公園に関係する出来事	●野外劇場、シーサイドヒルシオヤ [供用施設等]		●バラ園		●マリンワールド海の中道(第二期)		●彫刻の森、四季の森	●森の家 ●スカイドルフィン		
										
										
										2000 (H12) 年度時点の開園区域 (205.5ha)

2001 (平成 13) ~2010 (平成 22) 年

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
社会の出来事	●東京ディズニーシーオープン		●六本木ヒルズ完成	●福岡県西方沖地震 ●景観緑三法	●第22回全国都市緑化ふくおかフェア	●観光立国推進基本法 ●バリアフリー新法		●iPhone日本発売 ●リーマンショック ●生物多様性基本法	●政権交代(自民↓民主)	●大湫公園にスターバックスコffeeオーブン	●東日本大震災
公園に関する出来事	●B地区光と風の広場、デイキャンプ場 【供用施設等】	●デイキャンプ場	●フラワーミュージアム	●D地区潮見台エリア	●潮見台	●ザ・ルイガンズ、*ザ・ルイガンズ、H.Pより引用	●ホテル海の中道が「ザ・ルイガンズ」としてリニューアルの花の丘	●環境共生の森	●海の松原		
											
											

2011 (平成 23) ~2020 (令和 2) 年

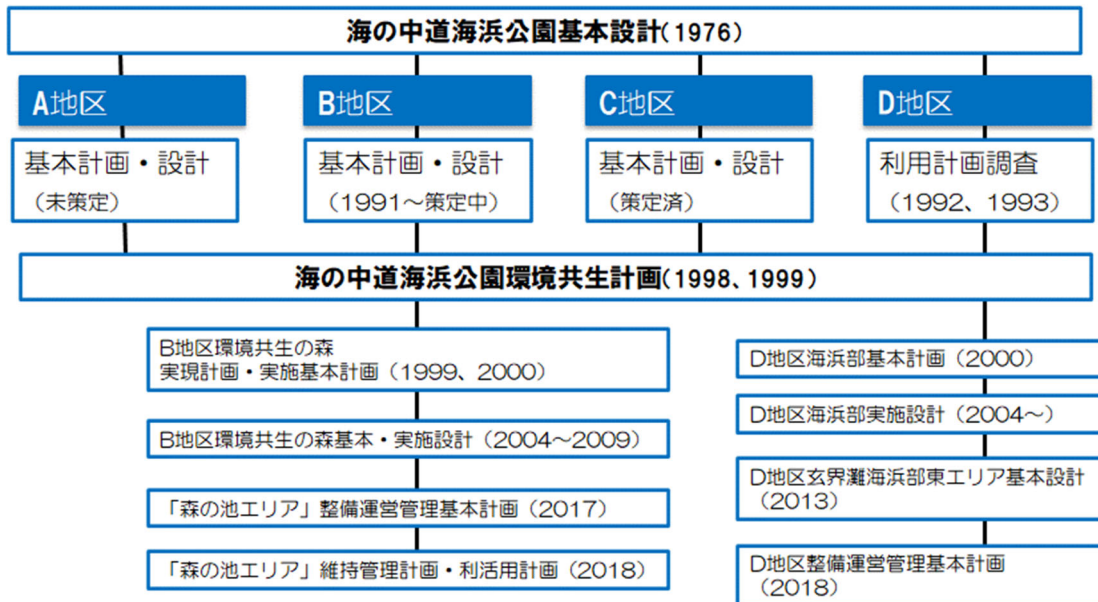
年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
社会の出来事		●東京スカイツリー完成				●熊本地震	●都市公園法改正	●スペースワールド閉園		
公園に関する出来事	●くじらくもふわんぼりん 【供用施設等】	●くじらくもふわんぼりん			●観覧車営業終了	●博多湾パノラマ広場のマリノワールド海の始 PFI事業開始	●博多湾パノラマ広場	●ザ・ルイガンズ PFI事業開始	●森の池	●森の池エリア開園
										
										

資料2 これまでの計画・設計

(1) 計画・設計の経緯

本公園の計画・設計は、1976年（昭和51年）の基本設計で全体の計画・設計を行い、その後順次エリア毎の計画・設計を行う形で進めてきた。

基本設計後の公園全体に係る計画として、1998年、1999年（平成10年、11年）に「海の中道海浜公園環境共生計画」を策定している。



(2) 1976 (S51) .3 海の中道海浜公園基本設計の概要

○基本理念 ※要約

基礎条件：“海の中道”の歴史的形成過程とその進化の方向性と自然生態的段階の認識

テーマ：海の中道の自然体系と21世紀へ向けての文化・レクリエーション展望の共生環境の創造

目標1：高度な生態的段階の環境を創出すること

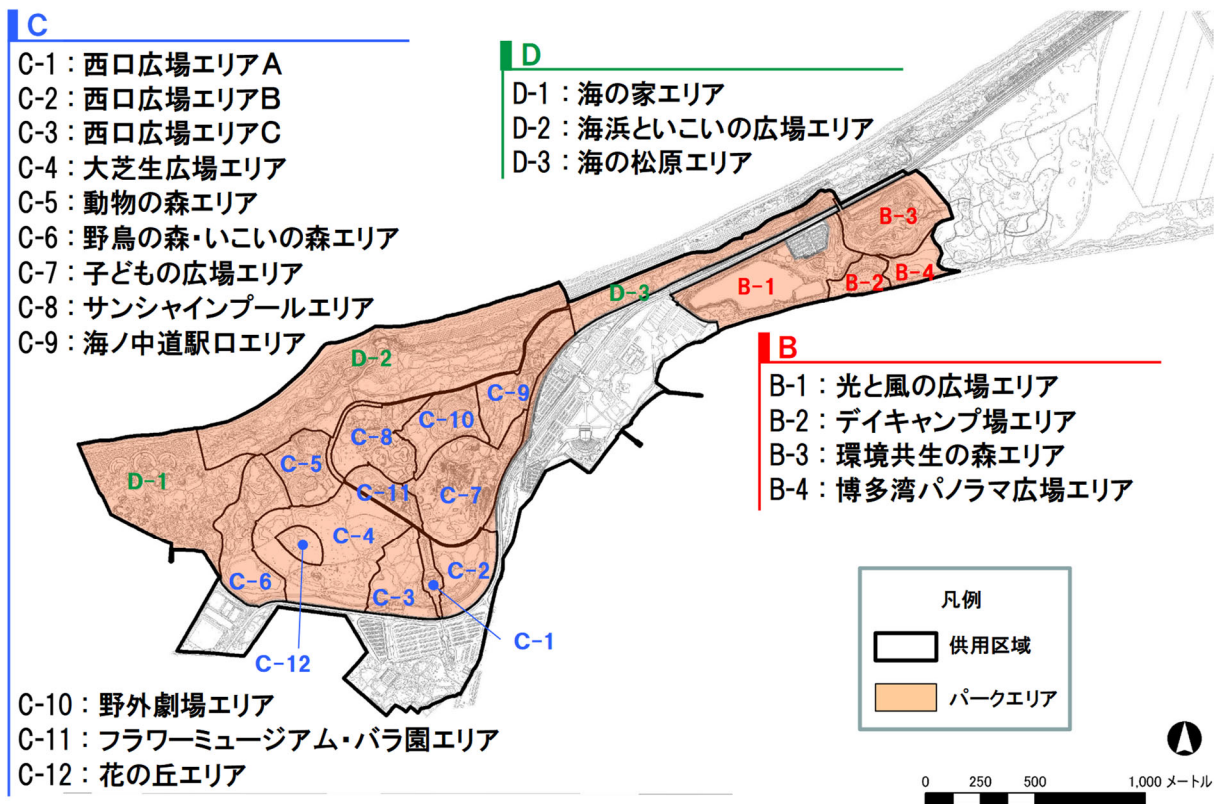
目標2：循環的かつ長期的に需要を喚起しうる内容と質を確保すること

○基本方針 ※要約

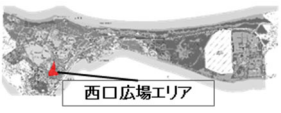

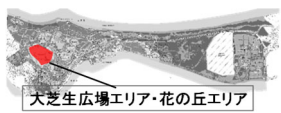



a.社会条件 に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡市のレクリエーション大拠点、北部九州圏域の広域緑地系統の一環として位置付け。即ち、日帰り利用を主体としながらも、既存施設を活用した宿泊利用も考慮。 ○隣接、近隣地域への本公園建設が与える影響を十分検討して、共存関係が成立するための条件に配慮しながら計画策定を進める。
b.自然条件 に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな造成に当たっては、既存の植生、地質、土壌条件等を十分考慮する。 ○全域が地表を除いて砂地である為、土壌改良又は土壌置換を行う事により植栽に適した土壌条件をつくる。 ○臨海性の植生を改善し二次林の形成を促進しつつ、緑地帯を拡大発展させる。 ○淡水と塩水の自然的バランスを破壊しないように池の造成を考慮する。
c.計画条件 について	<ul style="list-style-type: none"> ○スケールメリットを生かし自然公園的な性格をベースに通年利用可能な計画とする。 ○利用需要の多い夏季の海岸レクリエーション利用に対しては特別に考慮。ただし海岸線の現状保全を前提とし、一部浸蝕防止対策を行う。 ○北から吹く潮風の防風処置を植栽や盛土により講じる。 ○限界利用者に対して利用抵抗を小さく各年齢層の人々が平等に楽しめる企画を立案。 ○池の造成の切盛は整合させる。池は自然な地下水位の変動に対応するものとする。

資料3 各エリアの整備状況（パークエリア）

(1) エリア区分



(2) 整備状況

エリア	整備状況
<p>①C1～C3 西口広場エリア</p>  <p>西口広場エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当初開園時から供用している公園のメインエントランスエリア。 ○当初レストランだった水辺の広場レストハウスは、1994年（平成6年）から無料休憩所として利用。  <p>カナール 水辺のレストハウス</p>
<p>②C-4 大芝生広場エリア、C-12 花の丘エリア</p>  <p>大芝生広場エリア・花の丘エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当初開園時から供用している本公園で最も広大な広場空間を有するエリア。1990年（平成2年）にレストハウスを整備、1999年（平成11年）にUDに対応した大型複合遊具の新設を行っている。 ○2007年（平成19年）に大規模花修景を展開できる花の丘を整備。  <p>大芝生広場レストハウス 花の丘</p>
<p>③C-5 動物の森エリア</p>  <p>動物の森エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○当初開園時から供用している、動物を身近に観察し、触れあえるエリア。 ○継続的に動物舎の増設・改修等を実施。  <p>ふれあい動物舎 動物餌やり体験</p>

エリア	整備状況
<p>④C-6 野鳥の森・いこいの森エリア</p>  <p>野鳥の森・いこいの森エリア</p>	<p>○池や松林等の自然を主体としたエリア。段階的に供用区域を拡大。 ○1999年（平成11年）に森の家を整備し、自然体験の拠点として様々なプログラムを実施。</p>  <p>松林保全の取り組み</p>  <p>森の家の製作体験</p>
<p>⑤C-7 子どもの広場エリア</p>  <p>子どもの広場エリア</p>	<p>○子供が遊べる遊具が充実したエリア。 ○有料施設である観覧車やジェットコースター等は2008年（平成20年）以降順次撤去。2011年度（平成23年度）から無料遊具を主体としたエリアにリニューアル。</p>  <p>大観覧車</p>  <p>くじらぐもふわんぼりん</p>
<p>⑥C-8 サンシャインプールエリア</p>  <p>サンシャインプールエリア</p>	<p>○1983年（S58年）からオープン。施設の老朽化、陳腐化等から2003年度（平成15年度）に一部施設のリニューアルを実施。 ○リニューアル後は利用者が回復。パークエリア入園者の2～3割を占める。</p>  <p>ウォータージャングル</p>  <p>ドラゴンライダー</p>
<p>⑦C-9 海の中道口エリア、 C-10 野外劇場エリア</p>  <p>海中道口エリア</p>	<p>○1987年（昭和62年）海の中道駅の現位置への移転に伴い、1989年度（平成元年度）に駅に近い場所にゲートを設置。 ○1991年（平成3年）に野外劇場を整備。毎年野外コンサート等の大規模イベントに活用されている。</p>  <p>海の中道口ゲート</p>  <p>野外劇場</p>
<p>⑧C-11 フラワーミュージアム、 バラ園エリア</p>  <p>フラワーミュージアム・バラ園エリア</p>	<p>○花修景施設として、1991年（平成3年）にワイルドフラワーガーデン、1993年（平成5年）バラ園を整備。 ○2004年（平成16年）にワイルドフラワーガーデンを「屋根のない美術館」をイメージしたフラワーミュージアムにリニューアル。</p>  <p>バラ園</p>  <p>フラワーミュージアム</p>
<p>⑨D地区</p>  <p>D地区</p>	<p>○海浜植生の保全、再生に重点的に取り組んでいるエリアであり、海浜部は立ち入りを制限。 ○1989年（平成元年）に福岡市の青少年教育施設である青少年海の家、1991年（平成3年）にシーサイドヒルシオヤを供用。 ○2011年度（平成23年度）には、B地区へのアクセス路としてJRの線路・県道を跨ぐうみなかみらい橋を整備。</p>  <p>青少年海の家</p>  <p>うみなかみらい橋</p>
<p>⑩B地区</p>  <p>B地区</p>	<p>○2002年（平成14年）から供用を開始した自然の中でのレクリエーションを主体としたエリア。 ○2010年（平成22年）に市民との森づくりを行う環境共生の森、2017年（平成29年）に博多湾パノラマ広場を供用。 ○2020年（令和2年）4月に森の池エリア供用開始。</p>  <p>デイキャンプ場</p>  <p>博多湾パノラマ広場</p>

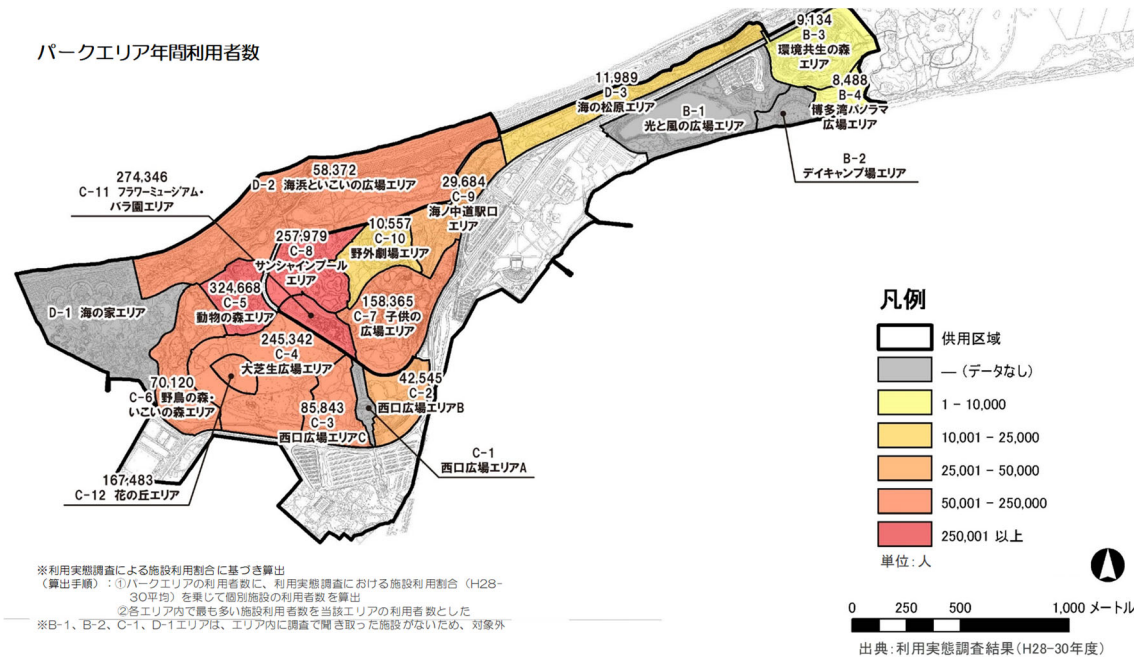
資料4 各エリアの利用状況

(1) 利用者数（日常利用）

○利用実態調査の結果を基に、エリア毎の日常利用の多寡の傾向把握を行った。

○C 地区は、動物の森、プール、フラワーミュージアムあたりに利用が集中している一方、野外劇場エリア、海の中道口エリア、西口広場エリア B は比較的用户数が少ない

○B 地区・D 地区は、C 地区に比して利用者が少ない。

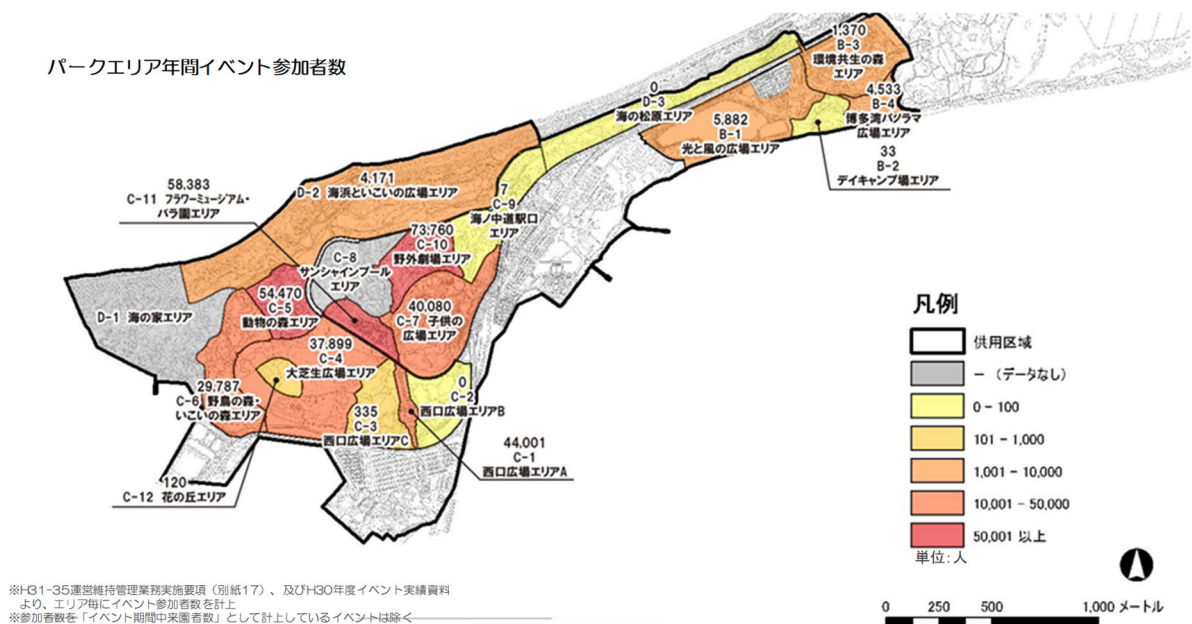


(2) イベント参加者数（イベント利用）

○過去3年間のイベント参加者数を基に、エリア毎のイベント利用の多寡の傾向把握を行った。

○C 地区は、野外劇場が最もイベント参加者数が多く、海の中道口エリア、西口広場エリア B が極めて少ない。(データなしのサンシャインプール、海の家エリアを除く)

○B 地区・D 地区は、C 地区に比してイベント利用者数も少ない。



出典: H31-35運営維持管理業務実施要項(別紙17)
イベント実績資料(H30年度)

(3) まとめ

○日常でも、イベント時でも利用者が多いエリアは、C-5 動物の森エリア、C-11 フラワーミュージアムエリアなど。

○B 地区・D 地区はC 地区に比して日常利用・イベント利用も少ない。また、C 地区の中でもC-9 海の中道駅エリア、C-2 西口広場エリアB は日常利用・イベント利用とも少ない。

エリア別年間利用者数・イベント参加者数（2016（H28）～2018（H30）年度平均） 順位

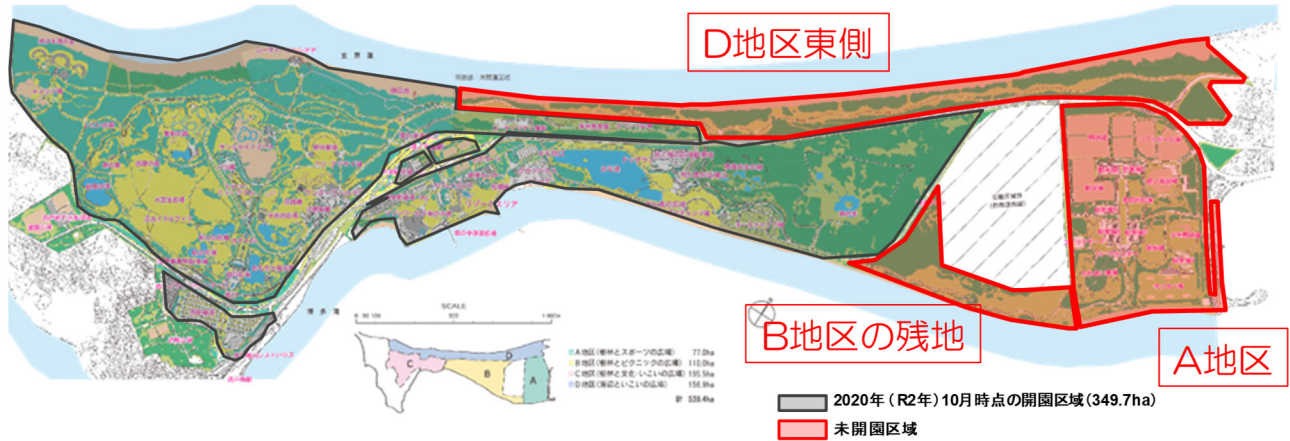
順位	利用者数		順位	イベント参加者数	
	エリア	利用者数 (人/年)		エリア	参加者数 (人/年)
1	C-5動物の森エリア	324,668	1	C-10野外劇場エリア	73,760
2	C-11フラワーミュージアム・バラ園エリア	274,346	2	C-11フラワーミュージアム・バラ園エリア	58,383
3	C-8サンシャインプールエリア	257,979	3	C-5動物の森エリア	54,470
4	C-4大芝生広場エリア	245,342	4	C-1西口広場エリアA	44,001
5	C-12花の丘エリア	167,483	5	C-7子どもの広場エリア	40,080
6	C-7子どもの広場エリア	158,365	6	C-4大芝生広場エリア	37,899
7	C-3西口広場エリアC	85,843	7	C-6野鳥の森・いこいの森エリア	29,787
8	C-6野鳥の森・いこいの森エリア	70,120	8	B-1光と風の広場エリア	5,882
9	D-2海浜といこいの広場エリア	58,372	9	B-4博多湾パノラマ広場エリア	4,533
10	C-2西口広場エリアB	42,545	10	D-2海浜といこいの広場エリア	4,171
11	C-9海ノ中道駅エリア	29,684	11	B-3環境共生の森エリア	1,370
12	D-3海の松原エリア	11,989	12	C-3西口広場エリアC	335
13	C-10野外劇場エリア	10,557	13	C-12花の丘エリア	120
14	B-3環境共生の森エリア	9,134	14	B-2デイキャンプ場エリア	33
15	B-4博多湾パノラマ広場エリア	8,488	15	C-9海ノ中道駅エリア	7
—	B-1光と風の広場エリア	データなし	16	C-2西口広場エリアB	0
	B-2デイキャンプ場エリア		D-3海の松原エリア	0	
	C-1西口広場エリアA		C-8サンシャインプールエリア	データなし	
	D-1海の家エリア		D-1海の家エリア		

※利用実態調査による施設利用割合に基づき算出
 （算出手順）：①パークエリアの利用者数に、利用実態調査における施設利用割合（2016～2018平均）を乗じて個別施設の利用者数を算出
 ②各エリア内で最も多い施設利用者数を当該エリアの利用者数とした
 ※B-1、B-2、C-1、D-1エリアは、エリア内に調査で聞き取った施設がないため、対象外

※H31-35運営維持管理業務実施要項（別紙17）、及び2018年度イベント実績資料より、エリア毎にイベント参加者数を計上
 ※参加者数を「イベント期間中來園者数」として計上しているイベントは除く

資料5 未開園区域の現状

2020年（令和2年）4月に森の池エリアが開園し、未開園区域はA地区、B地区の残地、D地区東側となっている。



(1) A地区（雁の巣レクリエーションセンター）

○雁の巣レクリエーションセンター（雁レク）は、1970年（昭和45年）に一部返還された米軍博多基地の一部を福岡市が旧大蔵省から使用承認を受け、1971年（昭和46年）に開園。

○後に返還された基地跡地と一体的に国営海の中道海浜公園の区域として都市計画決定。現在も福岡市が条例に基づいて設置、管理を行っている。

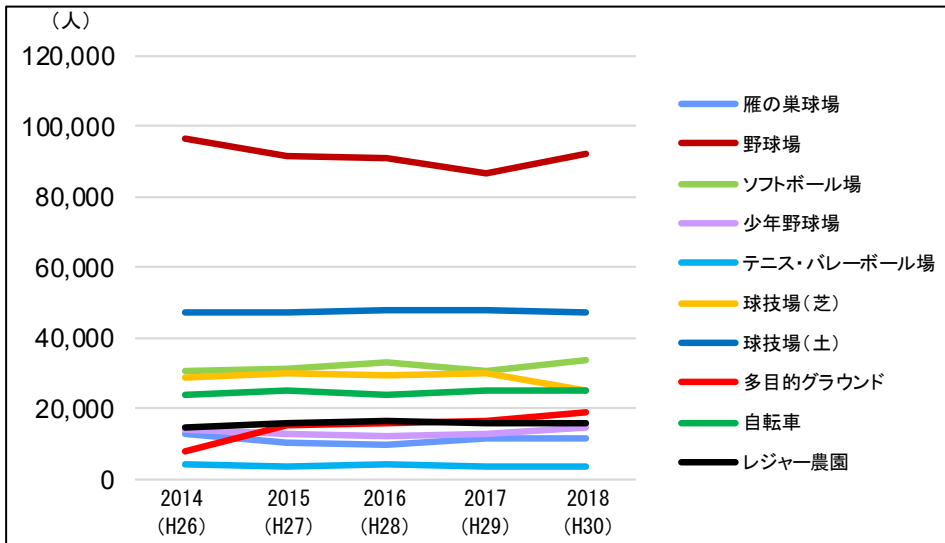
雁の巣レクリエーションセンターの経緯

年度	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977～	
	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52～	
公園の出来事	<p>1964年撮影(米軍博多基地時代)</p>			● 米軍博多基地返還	● 雁ノ巣公園建設連絡協議会発足	● 海の中道海浜公園基本設計 「海の中道海浜公園」都市計画決定	● 国営公園の区域決定、工事着手				
雁の巣レクリエーションセンターの出来事	<p>1969年撮影</p>			● 福岡市・大蔵省 雁ノ巣地域の米軍飛行場の一時使用許可申請	● 米軍博多基地一部返還 ● 大蔵省・福岡市 使用承認	● 雁の巣レクリエーションセンター開園 ● 福岡市雁の巣レクリエーションセンター条例	<p>1975年撮影</p>		● 基本設計で雁レクは各種運動施設を集約整備したゾーンとして位置づけ ● 雁レクも都市計画決定区域に	● 国営公園を設置すべき区域として決定、告示(法第33条)	

雁の巣レクリエーションセンターの利用者数

単位:人

2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
453,716	505,086	530,075	494,037	480,907	488,058



施設別利用者数



球技場



イベント状況 (サマーキャンプ in 雁の巣)



施設位置図

(2) B 地区

OB 地区の森の池エリアと A 地区の間の約 12.2ha のエリアが未開園区域。

○エリア内にはクロマツ林が分布。A 地区から連続する海岸線は、公園内の博多湾側で唯一自然海岸
が残り、穏やかな海に面した砂浜が広がっている。

○環境の保全と海浜レクリエーションの活用を両立させることを基本として、今後整備内容の具体化
を行う予定。



博多湾ごしの景観



自然海岸及び塩沼地植生



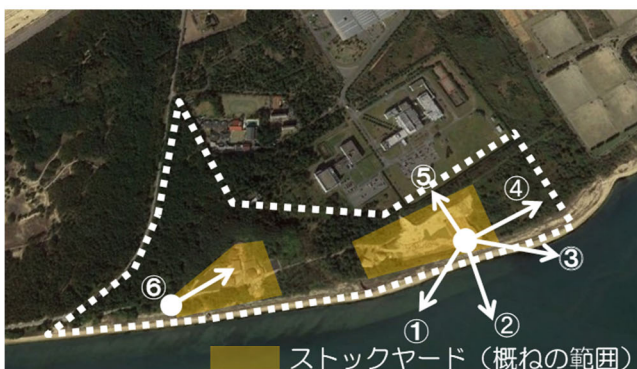
博多湾エコパークゾーンゾーニング

出典：エコパークゾーン ガイドブック（福岡市港湾空港局みなと環境政策課）



干潟保全活動の様子
(ウェットランドフォーム
ホームページより)

「ウェットランドフォーラム」や「和白干潟を守る会」といった保全活動団体により渡り鳥の住処である和白干潟の保全活動が行われている。



①C地区方向



②アイランドシティ方向



③海の中道大橋方向



④A地区方向



⑤航空管制方向



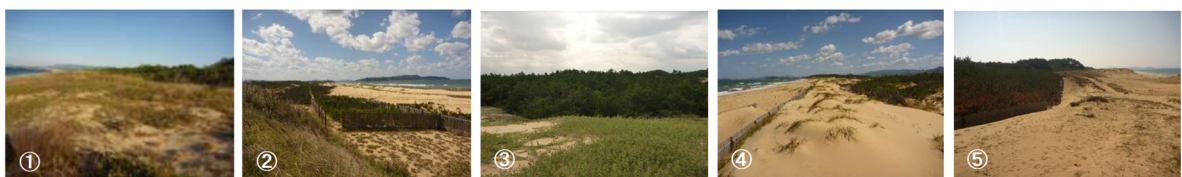
⑥エリア西側

(3) D 地区

OD 地区は、玄界灘に沿った砂丘とクロマツ林からなる帯状のエリアであり、東側の約 98.7ha のエリアが未開園区域。



○飛砂等によるマツ林の後退を防ぐため、これまでもクロマツの植栽等を実施しているが、既存のマツ林の後退や砂に埋もれた植栽箇所もあり、厳しい環境の中でのマツ林の保全再生が必要。

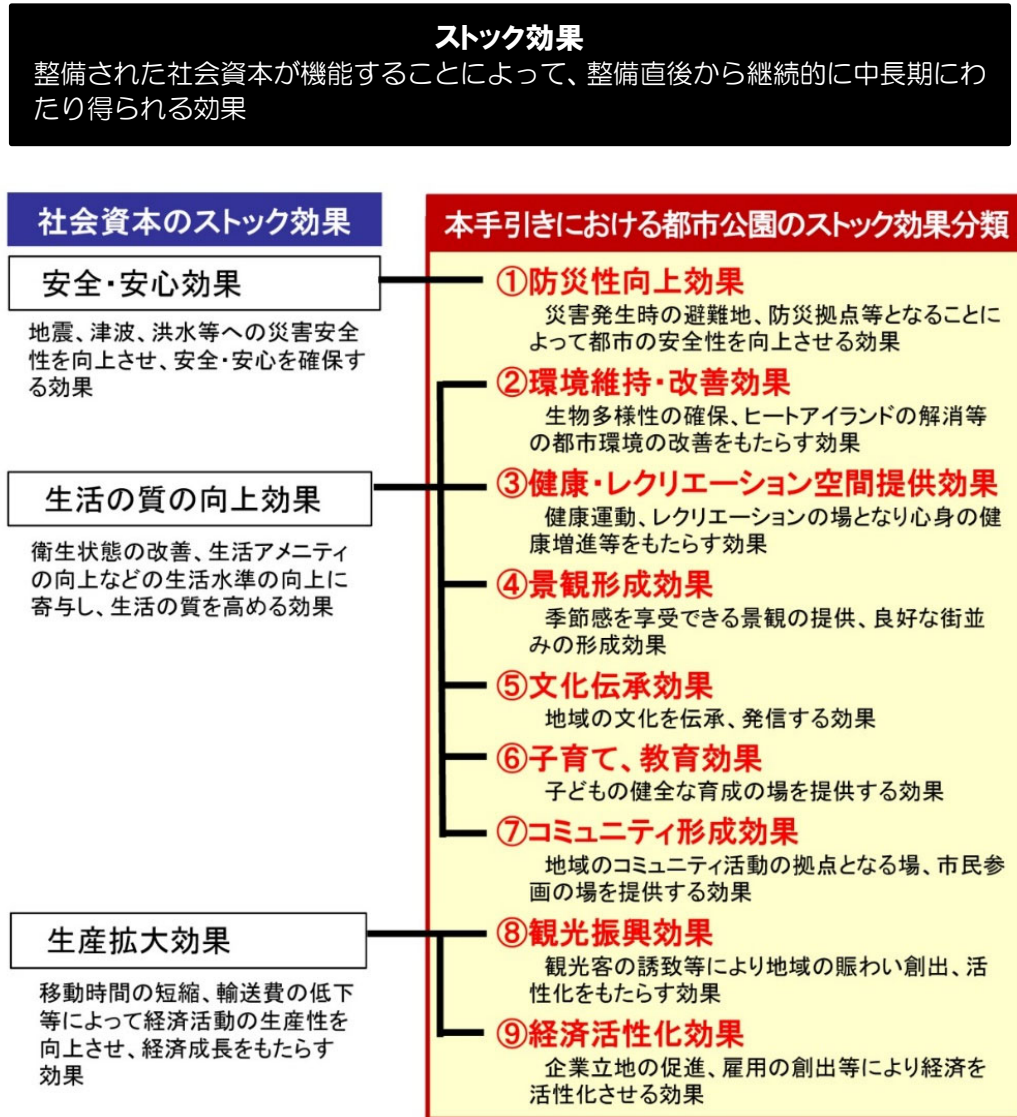


植栽地の状況

資料6 公園整備・管理運営によるストック効果

○本公園のこれまでの公園整備・管理運営で発現したストック効果を示す。

○都市公園のストック効果は、以下9つの効果に分類・整理される。以降、分類ごとに効果の内容を示す。



※それぞれの効果は相互に関連しており、厳密に分けられるものではない

防災

地震等の発生時に約15万人(※)が避難できる避難地を確保

(※) 約15万人=307,500㎡(避難場所面積)÷2㎡/人(広域避難地の有効避難単位面積)

※出典「防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)(平成27年9月改訂版)」

○公園内の広場や駐車場が福岡市の地区避難場所、広域避難場所に指定されており、地震等の災害時に避難者を受け入れ可能。

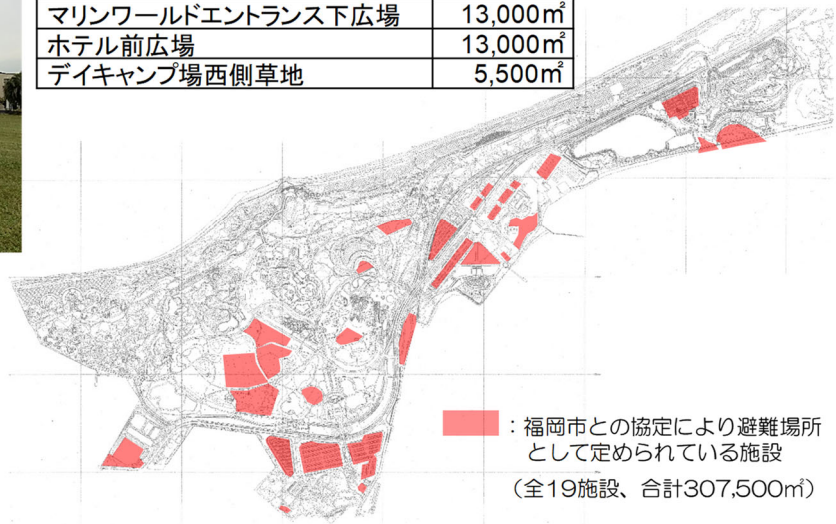
●避難場所の例



(ホテル前広場)

●主な避難場所

対象施設名	面積
西戸崎グラウンド	16,000㎡
マリンワールドエントランス下広場	13,000㎡
ホテル前広場	13,000㎡
デイキャンプ場西側草地	5,500㎡



環境

新たに10ha(サッカー場10面分(※))以上の緑を創出

○開園以来、D地区の松の植林やB地区における新たな森づくり等の自然環境の保全・創出に取り組んでおり、少なくとも約11.7haの緑地が新たに創出された。

D地区のマツ林の植栽効果



開園当初の青少年海の家付近(1981年(S56年))



計画的なマツの植栽(青少年海の家上空写真)

概ね3.4haの緑を新たに創出



青少年海の家付近(2020年(R2年)3月)

B地区の森づくりの効果



開園当初の環境共生の森付近(1981年(S56年))



植樹の様子



環境共生の森付近(2020年(R2年)3月)

概ね8.3haの緑を新たに創出

レクリエーション

年間200万人以上が訪れる広域レクリエーション拠点を創出

○時代に応じて多様な魅力を提供することで、福岡市を代表するレクリエーション拠点として定着。県内・県外から広域的に利用される施設となっている。



フラワーミュージアム

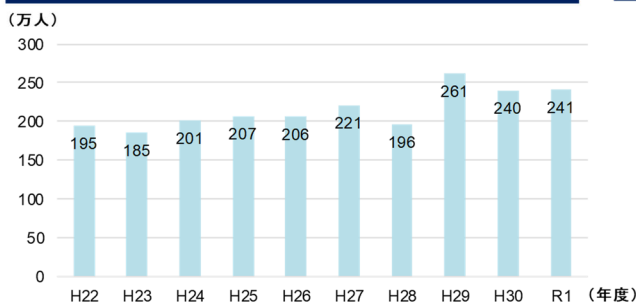


サンシャインプール

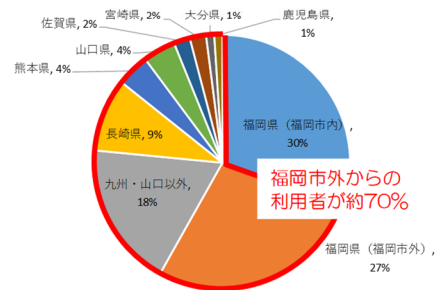


大芝生広場

過去10年間の入園者数の推移



公園利用者の居住地割合(2019年度(R1年度))



景観文化

「日本の白砂青松100選(※)」に選ばれる松原を保全・育成

(※) (社)日本の松の緑を守る会が選定した100ヶ所の日本の景勝地

○クロマツ林を保全・育成し、海の中道固有の白砂青松の景観を保全。本公園区域を含む海の中道の松原が「日本の白砂青松100選」に選定されている。



クロマツ林育成の取組



▲樹幹注入の様子



▲機械による薬剤散布



▲人力による薬剤散布



▲密度管理のための間伐

子育て 年間76万人(福岡県内の子供の人口以上(※))の子供が遊び、学ぶ場

(※) 福岡県のこども人口(15歳未満の人口) 推計値: 669,394人(2019年(平成31年)年4月)をもとに算出

○豊かな自然と広大な敷地を活かした様々な遊具や多様な環境学習プログラムを提供。子供たちが自然豊かな環境の中で遊び、学べる場となっている。



子供の広場

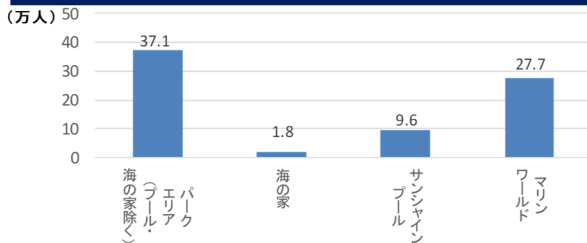


工作体験(森の家)



カッター教室(海の家)

主要施設の子供(中学生以下)の利用者数



【主要施設の子供の利用者数(2019年度(R1年度))】

※マリンワールドは年間バス利用者を除く

青少年海の家(教育施設)



- ・福岡市が運営する青少年教育施設
- ・2019年度(R1年度)活動参加学校数: 171校

※参考: 福岡市内の小学校数: 149校
中学校数: 82校(2019年(R1年).5.1現在)

コミュニティ

年間(※)を通じてボランティアが活躍している公園

(※) ボランティア等の2019年度(R1年度)活動回数: 324回

○様々なボランティア団体や個人ボランティアが、森の育成やイベントのサポート等に参画。学校や企業等の団体の社会貢献の場、地域住民同士の交流の場としても機能。



講習会の実施(ディスクゴルフボランティア)



チューリップの植え付けボランティア



キャンドルナイトボランティア

●登録ボランティアの活動実績(2019年度(R1年度))

ボランティア名(登録者数)	延べ活動人数	活動回数
海の中道フラワーボランティア(34名)	268名	36回
パラフレズ(21名)	89名	29回
海の中道サポートクラブ(38名)	349名	44回
動物の森ZOOボランティア(22名)	136名	52回
環境共生の森サポートボランティア(38名)	689名	76回
野鳥ボランティア(4名)	19名	10回
紙ヒコーキボランティア(8名)	10名	3回
ディスクゴルフボランティア(22名)	121名	21回
公園見守り隊(6名)	25名	10回
合計	1,076名	281回

●市民活動の活動実績(2019年度(R1年度))

ボランティア名	延べ活動人数	活動回数
ファミリーボランティア	542名	10回
プチボランティア	162名	13回
企業・団体等ボランティア	2,052名	20回
合計	2,756名	43回

観光

福岡市No.1(※)の観光地

(※) トリップアドバイザー 福岡市の観光スポットランキング第1位

○福岡市を代表する観光地として、外国人を含む多くの観光客が訪れる。(2019年度(R1年度)の外国人入園者数:約9万人。対2018年度(H30年度)比約130%)



福岡市の観光スポットで第1位

「福岡市の観光スポット」人気ランキング

順位	施設名
1位	海の中道海浜公園
2位	マリンワールド海の中道
3位	博多駅
4位	能古島
5位	大濠公園

データ出典: トリップアドバイザー (2020年(令和2年)2月10日時点)

人気ランキング: このランキングは、トリップアドバイザーの口コミの質、量、および投稿時期により計算された人気度に基づき施設やスポットを比較したものです。人気ランキングは特定のエリア内の類似する施設をランク付けし、旅行者に相対的な人気度を提示します。トリップアドバイザーの人気ランキングは通常週に1度更新されます。

(トリップアドバイザー ヘルプセンターページより抜粋)

外国人観光客の高い関心

福岡市の公式観光サイト「よかなび」のスポット情報閲覧ランキングにおいて、英語、中国語とも本公園が上位の閲覧数

順位	日本語	英語	韓国語	中国語(繁体字)	中国語(簡体字)
1位	このしまアイランドパーク	海の中道海浜公園	キャナルシティ博多	海の中道海浜公園	海の中道海浜公園
2位	海の中道海浜公園	天神地下街	シーサイドももち海浜公園	櫛田神社	太宰府天満宮
3位	博多デイトス	櫛田神社	太宰府天満宮	舞鶴公園	天神地下街

出典: 「福岡市の観光・MICE」2020年版(表は2019年(R1年)の閲覧数)

活力

全国から人が集まるイベントの開催で地域経済を活性化

○野外コンサートや福岡国際クロスカントリー大会などの全国から集客を期待できる大型イベントの開催により、地域経済の活性化に貢献。



NUMBER SHOT

・毎年夏に行われる九州を代表する大規模野外音楽フェスティバル

(参加者数:34,081人※2019年(R1年))



福岡国際クロスカントリー大会

・毎年2月に行われる日本陸上競技選手権大会の種目

・全国はもとより、外国人選手も招待される

(参加者数:6,821人※2018年(H30年))

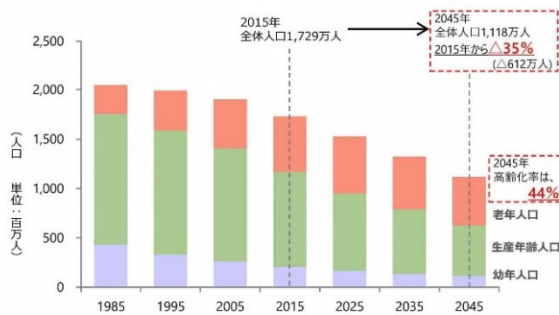
資料7 社会情勢の変化

(1) 地域社会の変化

- 地方圏を中心に全国的に人口の減少・高齢化が進んでおり、地方圏から東京圏への流出が続くなど、人口の地域的偏在が進行。
- 一方で、三大都市圏の居住者の間では、居住地域以外との交流の動きが見られ、地域の潜在力を発揮する新たな機会に。

■ 人口の減少・高齢化の進行

- 我が国全体において、2045年には、2015年から**総人口が16%減少**し、**高齢化率が37%**に達する見込み。
 - 5万人クラスの都市では、2045年に**全体人口が35%減少**し、**高齢化率は44%**に達するなど、**地方圏での人口減少・高齢化は顕著**。
- ※ 2050年には、全国の居住地域の約51%（面積ベース）で、人口が2015年から半数以上減少する見込み。

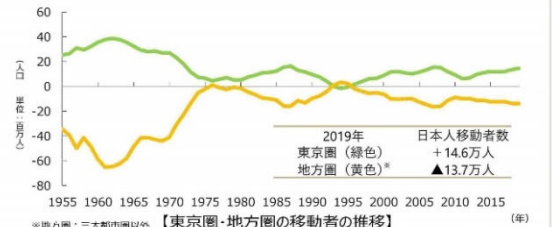


【5万人クラス都市の人口の推移】

※「5万人クラス都市」=三大都市圏、南庁所在地都市を除く、人口5万人未満の市町村
 (注)福島県は県全体の推計しか行われていないため、集計の対象外とした。
 (出典) 2005年までは総務省統計局「国勢調査報告」、2015年は総務省統計局「平成27年国勢調査人口等基本集計」、
 将来の推計値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成30年推計）より作成

■ 人口の地域的偏在の進行

- 東京圏への人口流入が続く一方、地方圏からは**継続的に流出**。



【東京圏・地方圏の移動者の推移】
 (出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成

■ 居住地域以外との交流

- 三大都市圏の18歳以上のうち、**約2割強 (約1,080万人)**が**日常生活圏、通勤圏以外の地域と定期的・継続的な関わり**があり、かつ、**訪問**。
- リニア中央新幹線の開通により、**三大都市圏から片道4時間以内に到達可能な都市が増加**する見込み。(95→112県庁所在地 (三大都市圏全体))



【三大都市圏から片道4時間で到達可能な47都道府県の県庁所在地数】
 出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会（2020（R2）.4.30）資料

(2) 経済状況の変化

- 北東・東南アジアの経済活動は拡大しており、アジア諸国の急速な成長等により、国際競争はますます激化。
- 国内の生産年齢人口が減少する中、周辺諸国の経済成長の取り込みは、日本にとってより重要に。

■ 北東・東南アジアの経済活動の拡大

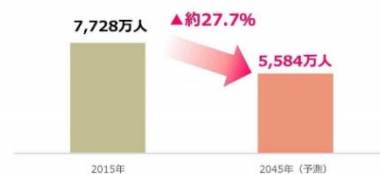
- 北東・東南アジアの域内貿易は1990年以降**約8.1倍に拡大**するとともに、**域外との貿易活動も大幅に拡大**。



【北東・東南アジアと各地域の貿易額の推移】
 (出典) JETRO「世界貿易マトリクス」より作成

■ 生産年齢人口の減少

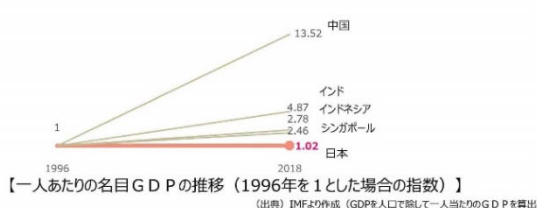
- 今後の30年間で、**生産年齢人口が約28%減少**する見込み。



【我が国の生産年齢人口の推移】
 (出典) 総務省「人口統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」より作成

■ 周辺諸国との競争の激化

- 1996年以降、一人あたり名目GDPは概ね変化しておらず、順位は**3位から26位に後退**。この間、**アジア諸国は急速に成長**。



【一人あたりの名目GDPの推移 (1996年を1とした場合の指数)】
 (出典) IMFより作成 (GDPを人口で割って一人当たりのGDPを算出)

■ 訪日観光需要の拡大

- 訪日外国人旅行者数は、2012年からの7年間で**約3.8倍に増加**。



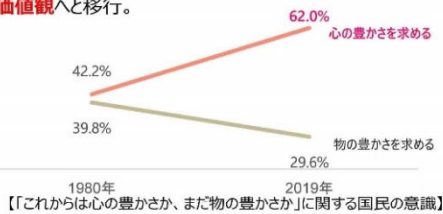
【訪日外国人旅行者の推移】
 出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会（2020（R2）.4.30）資料

(3) ライフスタイルの多様化

- 国民のライフスタイルや意識・価値観の変化を踏まえ、自然との調和や人々が安心して生活・移動できる優しい社会の実現が重要に。
- 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現は国際的にも重要に。

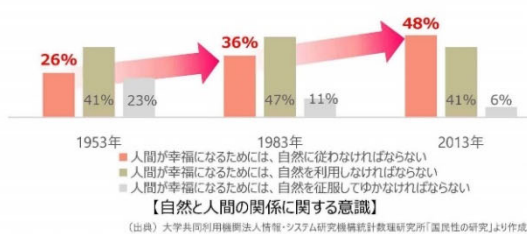
■ 国民の意識・価値観の変化

- 直近の数十年間に、物の豊かさを求める価値観から、**心の豊かさを求める価値観**へと移行。



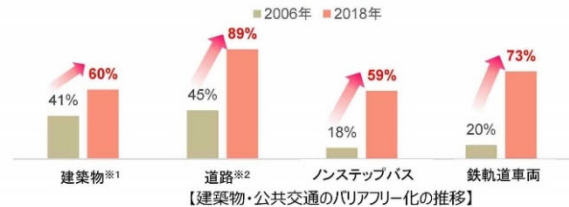
■ 自然との調和への関心の拡大

- 数十年前に比べ、自然を征服・利用するのではなく、**自然に従うべき**とする価値観が拡大。



■ 公共空間におけるバリアフリー化

- この数十年間に公共空間での**バリアフリー化が大きく進展**。



■ 持続可能・多様・包摂的な社会に向けた国際的な議論

- 「SDGs」の理念を踏まえ、**持続可能で多様性と包摂性のある社会**の実現に向けた取組が全世界的に加速。
- インフラ分野では、**目標9（強靭なインフラ構築等）**、**目標11（持続可能な都市の実現）**の取組として、防災・減災、国土強靭化の推進やコンパクト・プラス・ネットワークやグリーンインフラの推進等が関係。



【SDGsにおける17の国際目標】(出典) 外務省HP JAPAN SDGs Action Platform

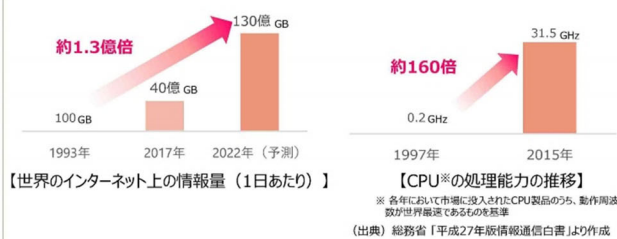
出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会（2020（R2）.4.30）資料

(4) デジタル革命の本格化

- 情報通信ネットワークやIoT、AI、ロボット等の利活用が急速に進展。ICT技術の利活用は生産性の向上に大きく寄与。
- 社会資本整備の分野においても、データや新技術を生かした業務の高度化・効率化の取組は、今後更に重要に。

■ データ通信量・処理能力の急速な拡大

- **世界での情報通信量は**、1993年からの約30年間で**約1.3倍増加**。
- AI等を支える**情報処理技術の能力**は、1997年から**約160倍向上**。



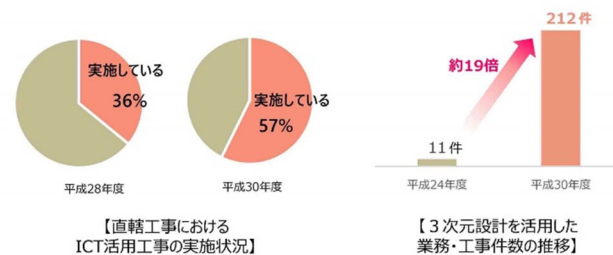
■ ICTによる生産性の上昇

- **ICT技術は業務の効率化を促すのみならず、新たな付加価値の創出**にも大きく寄与。

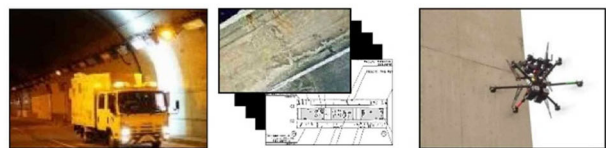


■ インフラ分野における技術実装

- 社会資本整備の現場において、ICT技術の活用が加速。



- メンテナンス分野において、ロボット技術等を活用した点検業務の効率化・高度化の取組が進捗。



【ロボットによるインフラの点検画像の取得】

出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会（2020（R2）.4.30）資料

(5) インフラの老朽化

- 高度経済成長期に集中的に整備された社会資本の老朽化が、今後加速度的に増加。
- 社会経済活動や国民の安全・安心の確保の基盤となるインフラが、その機能に支障が生じる前に対策を行う「予防保全」へ本格的に転換することにより、トータルコストの縮減・平準化が不可欠。
- 一方、現状は、老朽化対策の遅れにより、既に施設に損傷が見られるなど、機能に支障が生じているインフラが多数存在。

■ 深刻化するインフラの老朽化

- 今後、建設後50年以上経過する社会資本の施設の割合が加速度的に増加。



■ メンテナンスコストの増大

- 今後の維持管理・更新を「事後保全」により行った場合、30年後、その費用は約2.4倍増加。
- 仮に「予防保全」に転換しても、30年後の維持管理・更新費は約3割増加。
- 「予防保全」により行った場合、「事後保全」と比較して、その費用は約5割縮減。



■ 早期に対策が必要なインフラの現状

- 現状は、老朽化対策の遅れにより既に施設に損傷が見られるなど、機能に支障が生じているインフラが多数存在。

分野 ^{※2}	点検対象施設数 ^{※3}	うち 要緊急対策施設数	
道路	橋梁	717,391施設 (H31.3.31)	69,051施設 (H31.3.31)
	トンネル	10,718施設 (H31.3.31)	4,416施設 (H31.3.31)
	道路附属物等	39,873施設 (H31.3.31)	6,062施設 (H31.3.31)
河川	約14,300km 約8,500施設 (R2.3.31)	約3,600km 約1,800施設 (R2.3.31)	
砂防	砂防設備：約83,000基地すべり・急傾斜：約37,000区域 (R2.3.31)	砂防設備：約3,000基地すべり・急傾斜：約6,000区域 (R2.3.31)	
海岸(海岸堤防等)	約5,900km (H31.3.31)	約780km (H31.3.31)	
下水道(管路施設)	4,274km (H31.3.31)	11.6km (H31.3.31)	
港湾	58,839施設 (H31.3.31)	10,178施設 (H31.3.31)	
空港(土木施設 ^{※4})	80空港 (H31.3.31)	7空港 (H31.3.31)	
航路標識	2,400施設 (H31.3.31)	267施設 (H31.3.31)	
公園	86,662施設 (H31.3.31)	21,480施設 (H31.3.31)	
公営住宅	2,162,484戸(H31.3.31)	1,150,506戸(H31.3.31)	
官庁施設	9,283施設(H31.4.1)	743件 ^{※5} (R1.8.20)	

※1：各施設数は括弧内の時点の数字

※2：要緊急対策施設がない分野は除く

※3：点検対象施設数には点検未了のものも含む

※4：空港土木施設(幹線排水、共同溝、下水道、橋梁、護岸)

※5：老朽を理由とした修繕計画のうち、緊急を要すると判定された計画の件数

出典：社会資本整備審議会 第44回計画部会(2020(R2)4.30)資料

(6) 「新しい生活様式」への対応

(「新しい生活様式」を踏まえた身近な公園利用のポイント)

「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！…4つのポイント

- 新型コロナウイルス感染症に備えた「新しい生活様式」の中では、心と体の健康を保つため、体を動かしたり、屋外でリフレッシュすることも大切です。
- 以下の4つのポイントに気をつけ、マナーと思いやりを大切に、身近な公園を利用しましょう。

1. 体調が悪いときは利用を控える



- ☑ 発熱、咳、のどの痛みなど体調不良の際は外出を控えましょう

2. 時間・場所を選び、ゆずりあおう



- ☑ 混んでいると感じたら時間を変えるか別の公園を探しましょう
- ☑ 利用する時間はいつもより短めにしゆずりあいましょう

3. 人と人とのあいだをあげよう



- ☑ 他の利用者とは、できるだけ2m(最低1m)離れましょう
- ☑ 十分な距離をあげられる時は、マスクをはずしましょう

4. こまめに手洗いしよう



- ☑ みんながよく触れる場所に触ったあとは手洗いしましょう
- ☑ 家に帰ったら、まず手と顔を洗いましょう

※ この資料は、「新しい生活様式」を踏まえた公園利用の基本的なポイントを示したものです。具体的な公園の利用については、各公園や地域の状況に応じて判断していただく必要があります。利用者みなさまにおかれては、各公園の管理者から示されている注意事項等も十分ご確認ください。ご利用ください。

出典：国土交通省「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！4つのポイント(概要版)

New Normal Park Life

新たな日常×公園の魅力

陽の光
光を浴びて
元気いっぱい。

そよ風
吹く風は
心地よい
自然の換気。

大空
見上げれば
隣町にも
宇宙にもつながる
開放感。

五感
色や匂いで
季節を感じる。
いきもの、花、木々の
リアルなふれあい。

広がり
天井や壁のない
広々とした空間。
食事もうったり
気持ちよく。

木陰
木々の枝葉に
守られ
外でも涼しく。

**地域との
つながり**
リモートワークが
続いても
公園に行けば
誰かに会える。



**もっと公園に
出かけましょう**

国立成育医療研究センター理事長 五十嵐 隆
子どものころと体の発達にとって、戸外で遊ぶ
ことはとても重要です。この時期であるからこそ、
公園を上手に利用していただきたいと思います。

公園はいつもあなたのそばにある！

新型コロナウイルス感染症の広がりにより外出を控えることが多くなり、健康二次被害が指摘されています。屋外で気持ちよく過ごし、感染症に負けない健康な心と体をつくることも大切です。そんな中、身近な公園が注目されています。歴史的にも、都市に公園をつくる大きな目的は衛生上の必要とされ、「都市の肺」として

整備が進められてきました。そしていまは全国に1人あたり10㎡のストックがあります。身近な緑のオープンスペースで、リフレッシュしたり、体を動かしたりできるんです。公園では、リモートでは体験できない五感で感じるリアルな体験が待っています。

全国都市公園整備促進協議会 <https://www.posa.or.jp/sokushin/>

お近くの公園の情報は、市区町村のHPなどで探することができます。さあ、公園に出かけ、利用のルールを守ってもっと楽しい時間を過ごしましょう！

新しい生活様式で公園を楽しむ方法

アイデア無限大

New Normal Park Life

青空の下でエクササイズ
土や草の匂いを感じながら、大きく深呼吸。体を動かして活力を取りもどそう！

歩数計を持って出かけよう
草木や花を眺めながら歩くだけで、心も身体もリフレッシュ。坂道があればハイキング気分も味わえる。

シートひとつでどこでもカフェ
風通しのよい公園で、お気に入りのコーヒーを。

アウトドアでやってみよう
太陽の下、フライングディスク、バトミントン。木陰でトランプ、将棋だって。たまには仕事も外で気持ちよく。遊び方も楽しみ方もあな次第。

お気に入りの場所でゆったり
芝生で寝ころんでOK！好きな場所で本を読んだり、音楽を聞いたり、緑を眺めてリラクスタタイムをどうぞ。

すぐにける遊園地
ブランコも滑り台もお家のすぐ近くに！小さな公園も子どもにとっては大きな遊園地。

土に触れて自然を感じる
しゃがんで土いじり。地面を観るとバッタ、アリの巣、ダンゴムシ。

草花と外遊び
シロツメクサの花飾りや笹舟作り、オオバコ草相撲…草遊びで身近な草を知り、花の香りや季節を感じて、思い出づくり。

生きもの探しの大冒険！
セミの抜け殻、トンボの産卵…公園は、大自然への第一歩。まるで、様々な不思議や発見がある身近なジャングルです。

全国都市公園整備促進協議会 <https://www.posa.or.jp/sokushin/>

お近くの公園の情報は、市区町村のHPなどで探することができます。さあ、公園に出かけ、利用のルールを守ってもっと楽しい時間を過ごしましょう！

出典：全国都市公園整備促進協議会 New Normal Park Life ポスター